

## 献辞

本戸翁先生は、かねて病氣療養中でありましたが、二〇〇〇年六月一日ついに帰らぬ人となりました。

先生は、神戸大学に二八年間在職され、その間、評議員、法学部長などの要職を歴任される一方、学会では、日本学術会議政治学研究連絡委員会委員、日本国際政治学会理事長として活躍されました。神戸大学を定年退職後、一九九六年四月から本法学部教授に就任され、国際関係論、ロシア・東欧政治論の講義を担当されました。

先生には設立間もない国際関係法学科の発展のためにその重鎮としての期待が寄せられ、またユーゴ紛争をはじめ混乱を極めるソ連・東欧問題研究の泰斗として、研究教育上のますますのご活躍が期待されていましたが、その矢先にご病氣に倒られましたことは、誠に痛恨の極みであります。

本学での歓迎会の折、先生は、ご自分の「専門領域のソ連も、またコミュニスト・ヨーロッパを意味する東欧もともに消滅し、研究対象がなくなつた」とユーモアを交えて語っておられました。二〇世紀の人類の壮大な実験とともに、いま先生が精魂を傾けられたご研究にもピリオドが打たれてしまったことに、大きな歴史の足音を聴く思いがいたします。とはいえ、先生のご研究は後の世代の研究の礎石として永遠に生き続けることであります。

ここに先生のご遺徳を偲び、ご霊前にこの追悼号を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

二〇〇一年七月